

(別紙様式4)

【職業実践専門課程認定後の公表様式】

平成29年7月31日※1
(前回公表年月日:平成28年10月1日)

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																		
伝統文化と環境福祉の専門学校	平成20年1月8日	本間 慎	〒123-1234 新潟県佐渡市千種丙202番地1 (電話) 0259-61-1122																		
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																		
学校法人新潟総合学院	平成7年3月24日	理事長 池田 祥護	〒951-8065 新潟県新潟市中央区東堀通一番町494 (電話) 025-210-8565																		
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																	
教育・社会福祉	専門課程	介護福祉学科	平成21年文部科学省告示第21号	—																	
学科の目的	高齢化率の高い佐渡市において、待機者減少に向け施設定員の増加が進行しているなか、介護の現場では、質の高い介護が要求されており、専門教育を習得した人材が求められている。この背景のもと、実践的な専門教育を通じ、確かな技術・知識・資格を有し、地域社会の発展に寄与できる介護福祉士を養成する。																				
認定年月日	平成26年3月31日																				
修業年限	昼夜	講義	演習	実習	実験	実技															
2年	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数 昼間 2244時間	1161時間	603時間	480時間	0時間	0時間															
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																
80人	22人	4人	3人	4人	7人																
学期制度	■前期:4月1日～8月22日 ■後期:8月28日～3月31日	成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 定期試験、授業態度、出席状況、レポート																		
長期休み	■学年始:4月1日～4月3日 ■夏季:8月11日～8月20日 ■冬季:12月23日～1月8日 ■学年末:2月9日～3月31日	卒業・進級条件	・出席数8割以上(授業科目、総時間に対して8割以上の出席) ・成績評価C以上																		
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 個人面談、保護者会、カウンセリング(カウンセラー)	課外活動	■課外活動の種類 スポーツ大会、ボランティア																		
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(平成28年度卒業生) 社会福祉法人、医療法人等 ■就職指導内容 全体指導、個別指導 ジョブカードを使用した面談 ■卒業生数 : 10 人 ■就職希望者数 : 10 人 ■就職者数 : 10 人 ■就職率 : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 100 % ■その他 (平成28年度卒業生に関する平成29年5月1日時点の情報)	主な学修成果(資格・検定等)※3	■サークル活動: 有 ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成28年度卒業生に関する平成29年5月1日時点の情報) <table border="1"><thead><tr><th>資格・検定名</th><th>種</th><th>受験者数</th><th>合格者数</th></tr></thead><tbody><tr><td>介護福祉士</td><td>①</td><td>10人</td><td>10人</td></tr><tr><td>Word文書処理機能認定試験</td><td>③</td><td>8人</td><td>2人</td></tr><tr><td>Excel表計算処理認定試験</td><td>③</td><td>8人</td><td>5人</td></tr></tbody></table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	介護福祉士	①	10人	10人	Word文書処理機能認定試験	③	8人	2人	Excel表計算処理認定試験	③	8人	5人
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																		
介護福祉士	①	10人	10人																		
Word文書処理機能認定試験	③	8人	2人																		
Excel表計算処理認定試験	③	8人	5人																		
中途退学の現状	■中途退学者 1 名 ■中退率 4.3 % 平成28年4月1日時点において、在学者23名(平成28年4月1日入学者を含む) 平成29年3月31日時点において、在学者22名(平成29年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 健康上の理由(精神疾患) ■中退防止・中退者支援のための取組 個別面談 保護者会 カウンセリング																				
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 特性制度(入試時・進級時) 学業、学内活動等優れており、他の学生の見本となりうると判断した学生に、入学金や授業料の減免 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																				
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																				
当該学科のホームページURL	http://www.sado-nsg.com/																				

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

介護実習に関わる授業については、施設と協定を結び、学生の実習を行っており、職員から実習指導をいただいている。学生の評価は、実習前の計画、実習中、実習後のまとめのそれぞれで、クラス担任へフィードバックされ、実習担当者とクラス担任と協議の上、成績評価を行うなど、現場で活用できる力を評価できる教育編成を行っている。また、講義においても、テキストのほか実例として現場の声を取り入れるため、講師派遣を依頼している。

この他にも、関連分野の動向については、教育課程編成委員会の他、関連学会、関連施設、NPO等へ専任教員が積極的に参加、連携することにより、教育課程編成委員会の範囲外での情報の獲得を行っている。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

別紙組織図に示すとおり、教育課程編成に関わる教務部と同列に教育課程編成委員会を組織し、同委員会の意見を聴取し、学科に係る教育課程に反映させる。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成29年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
山本 郁男	佐渡市高齢福祉課	平成29年9月1日～平成30年8月31日	①
伊澤 宏二	社会福祉法人愛宕福祉会 新穂愛宕の園	平成28年9月1日～平成29年8月31日 平成29年9月1日～平成30年8月31日	③
山下 峰生	株式会社クローバー佐渡	平成28年9月1日～平成29年8月31日 平成29年9月1日～平成30年8月31日	③
本間 慎	伝統文化と環境福祉の専門学校(事務局)	平成28年9月1日～平成29年8月31日 平成29年9月1日～平成30年8月31日	
渡辺 秀則	伝統文化と環境福祉の専門学校(事務局)	平成28年9月1日～平成29年8月31日 平成29年9月1日～平成30年8月31日	
橋本 瑞江	伝統文化と環境福祉の専門学校(事務局)	平成28年9月1日～平成29年8月31日 平成29年9月1日～平成30年8月31日	
後藤 唯	伝統文化と環境福祉の専門学校(事務局)	平成28年9月1日～平成29年8月31日 平成29年9月1日～平成30年8月31日	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年2回の開催とし、前期終了後の8月と後期終了後の1月に実施する。

(開催日時)

第1回 平成29年12月21日 10:00～10:45

第2回 平成30年2月23日 11:00～12:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

第1回委員会で議論された内容について、特に人間力や社会人教育の観点は次年度の授業内容に反映する予定である。この点について、第2回の委員会でより深い議論を重ね、新たな資格や授業の方法等について改善を行う。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

現場に必要な知識、技術について、現場での評価をいただくこと、また、実際に介護の現場で働く、職員の方々と学生が交流することで、校内だけでは得ることのできない情報や体験をする機会を設けている。また、実習では様々なタイプの施設へ伺い、学生自身の就職活動にも役立っている。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

介護実習では、学生を施設に派遣し実習を行う。実習に関しては、現場の職員に実習指導者をお願いし、学生の指導、フォローを行っている。専任教員は、各施設を巡回し、実習指導者及び職員による学生評価を聞きとるとともに、必要な学生指導を行う。学生の評価は、実習前の計画、実習中、実習後のまとめのそれぞれで、クラス担任へフィードバックされ、実習担当者とクラス担任と協議の上、成績評価を行っている。また、実習後には専任講師は実習指導者、施設長等と学生全体の評価や業界の動向について意見交換を行っている。

また、知識に関して、科目「障害の理解」では現場の声を反映するため、講師の派遣を依頼し、現場の声を活かすとともに、専任教員にも資料等で最先端の情報を提供していただいている。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。		
科目名	科目概要	連携企業等
介護実習Ⅰ－(1)	高齢者施設などを実習施設として、要介護者コミュニケーションの取り方や社会福祉施設で働く職種の理解を中心に実習を行う。	デイサービスセンターなんだい、社会福祉法人佐渡市社会福祉協議会、社会福祉法人大佐渡福祉会、介護老人保健施設さど、社会福祉法人佐渡国仲福祉会、社会福祉法人佐渡福祉会、介護老人保健施設相川愛広苑、社会福祉法人小佐渡福祉会
介護実習Ⅰ－(2)	高齢者、重度生活障害を有する利用者を対象に、様々な暮らしの場を通して、障がいレベルに応じて求められる介護技術の科学的根拠を理解し、基礎的技術を実践的に学ぶ。	社会福祉法人愛宕福祉会新穂愛宕の園、社会福祉法人佐渡寿福祉会、介護老人保健施設さど、社会福祉法人佐渡国仲福祉会、社会福祉法人佐渡福祉会、介護老人保健施設相川愛広苑、社会福祉法人小佐渡福祉会
介護実習Ⅰ－(3)	個別ケアを実践する為に、ICFの視点から個々の生活リズムや個性を理解し、利用者ごとの介護計画作成一実施一評価といった介護過程を展開し具体的サービスの提供の基本となる実践力を習得する。	社会福祉法人愛宕福祉会新穂愛宕の園、社会福祉法人佐渡寿福祉会、介護老人保健施設さど、社会福祉法人佐渡国仲福祉会、社会福祉法人佐渡福祉会、介護老人保健施設相川愛広苑、社会福祉法人大佐渡福祉会、社会福祉法人小佐渡福祉会
介護実習Ⅰ－(4)	個別ケアを実践する為に、ICFの視点から個々の生活リズムや個性を理解し、他科目で学んだ知識や技術を統合して具体的サービスの提供の基本となる実践力を習得する。	社会福祉法人愛宕福祉会新穂愛宕の園、社会福祉法人佐渡寿福祉会、介護老人保健施設さど、社会福祉法人佐渡国仲福祉会、社会福祉法人佐渡福祉会、介護老人保健施設相川愛広苑、社会福祉法人大佐渡福祉会、社会福祉法人小佐渡福祉会
介護実習Ⅱ	施設運営のプログラムに参加し、介護サービスについて理解を深める。	社会福祉法人愛宕福祉会新穂愛宕の園、社会福祉法人佐渡寿福祉会、介護老人保健施設さど、社会福祉法人国仲福祉会、介護老人保健施設相川愛広苑、社会福祉法人大佐渡福祉会、社会福祉法人小佐渡福祉会

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

就業規則第57条の規定に基づき、専門分野の知識・技術に関する教育・研修、学生指導について必要と認められる教育・研修等への積極的な参加と業務への有効活用を定めている。

専門分野の知識・技術に関する教育・研修については、学会への参加及び発表、専門分野に関わる講習会・講演会への参加を促し、また、情報の収集と提供を行っている。

学生指導について必要と認められる教育・研修、教員の業務能力に関わる教育・研修については、法人内部および外部機関の研修に定期的に参加させている。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

平成28年6月10日 介護福祉士養成施設協会関東信越ブロック新潟県部会

平成28年9月15日 介護福祉士養成施設協会関東信越ブロック研修

② 指導力の修得・向上のための研修等

平成28年7月 株式会社スウェーデン福祉研究所タクティールケア研修

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

平成29年9月 介護福祉士養成施設協会関東信越ブロック研修

平成29年11月26日 日本介護福祉学会関東ブロック研修会

平成30年2月7日8日 日本介護福祉教育学会

② 指導力の修得・向上のための研修等

平成29年8月 新潟県介護福祉協会佐渡ブロック研修

平成29年9月 新潟県教職員組合ADHD研修

平成29年11月10日 新潟県介護老人保健施設大会

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

別紙組織図に示すとおり、学校関係者評価委員会を設置し、学生、保護者からの学校関係者評価及び教職員の自己評価の結果をもとに、教育理念・目的・育成人材像、教育活動、学生支援等について評価を行う。評価にあたっては、優先順位をもうけ、適時改善を図り、教育活動、学校運営に反映させる。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか、学校における職業教育の特色は何か、社会経済のニーズをふまえた学校の将来構想を抱いているか、学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者に周知されているか、各学科の教育目標。育成人材像は学科等に対応する業界のニーズに向けて方向付けられているか
(2)学校運営	目的等に沿った運営方針が策定されているか、運営方針に沿った事業計画が策定されているか、運営組織や意志決定機能は規則等において明確化されているか、有効に機能しているか、人事、給与に関する規定等は整備されているか、教務・財務等の組織整備など意志決定システムは整備されているか、業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか、教育活動等に関する情報公開が適切になされているか、情報システム化等による業務の効率化が図られているか
(3)教育活動	教育理念などに沿った教育課程の編成・実施方策などが策定されているか、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか、学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか、キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか、関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成、見直し等が実施されているか、関連分野における実践的な職業教育が体系的に位置づけられているか、授業評価の実施・評価体制はあるか、職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか、成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか、資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか、人材育成目標の達成に向け授業を行うことが出来る要件を備えた教員を確保しているか、関連分野における業界等との連携に置いて優れた教員を確保するなどマネジメントが行われているか、関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力の育成など資質向上のための取組が行われているか、職員の能力開発のための研修などが行われているか
(4)学修成果	就職率の向上が図られているか、資格取得率の向上が図られているか、退学率の低減が図られているか、卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか、卒業後のキャリア形成への成果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか
(5)学生支援	進路・就職に関する支援体制は整備されているか、学生相談に関する体制は整備されているか、学生に対する経済的な支援体制は整備されているか、学生の健康管理を担う組織体制はあるか、課外活動に対する支援体制は整備されているか、学生の生活環境への支援は行われているか、保護者と適切に連携しているか、卒業生への支援体制はあるか、社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか、高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業訓練の取組が行われているか
(6)教育環境	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか、内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか、防災に対する体制は整備されているか
(7)学生の受入れ募集	学生募集活動は適正に行われているか、学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか、学納金は妥当なものとなっているか
(8)財務	中長期的に学校の財政基盤は安定しているといえるか、予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか、財務について会計監査が適正に行われているか、財務情報公開の整備はできているか
(9)法令等の遵守	法令、専門学校設置基準の遵守と適正な運営がなされているか、個人情報に対し、その保護のための対策がとられているか、自己評価の実施と問題点の改善を行っているか、自己評価結果を公表しているか
(10)社会貢献・地域貢献	学校の教育資源や施設を利用した社会貢献・地域貢献を行っているか、学生のボランティア活動を奨励、支援しているか、地域に対する公開講座・教育訓練の受託等を積極的に実施しているか
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況
 11月に実施する、アンケートによる学生、保護者からの学校関係者評価及び教職員の自己評価の結果をもとに、学校関係者評価委員会を開催し、次年度の教育理念・目的・育成人材像、教育活動、学生支援等の評価を行う。その結果をもとに、本年度の学校運営に反映させるため学内での部会を設け、優先順位のもと適時改善を図る。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿 平成29年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
山本 郁男	佐渡市高齢福祉課	平成29年9月1日～平成30年8月31日	行政
伊澤 宏二	社会福祉法人愛宕福祉会 新穂愛宕の園	平成28年9月1日～平成29年8月31日 平成29年9月1日～平成30年8月31日	企業等委員
山下 峰生	株式会社クローバー佐渡	平成28年9月1日～平成29年8月31日 平成29年9月1日～平成30年8月31日	企業等委員
本間 慎	伝統文化と環境福祉の専門学校(事務局)	平成28年9月1日～平成29年8月31日 平成29年9月1日～平成30年8月31日	学校長
渡辺 秀則	伝統文化と環境福祉の専門学校(事務局)	平成28年9月1日～平成29年8月31日 平成29年9月1日～平成30年8月31日	副校長
橋本 瑞江	伝統文化と環境福祉の専門学校(事務局)	平成28年9月1日～平成29年8月31日 平成29年9月1日～平成30年8月31日	学科長
後藤 唯	伝統文化と環境福祉の専門学校(事務局)	平成28年9月1日～平成29年8月31日 平成29年9月1日～平成30年8月31日	就職担当

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
 (例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期
 (ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他())
 URL: <http://www.sado-nsg.com/disclosure.html>

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針
 情報公開に関しては、ホームページ、ブログ、フェイスブック等を活用し、最新情報及び必要な情報の発信に努めている。また、学生募集要項等、必要に応じた書類を作成し、必要に応じた情報提供を行うとともに、求人DM等を作成し、学科の概要等情報発信に努めている。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	教育目標、特色、学校長名、所在地、連絡先
(2)各学科等の教育	入学者の受け入れ方針、収容数、使用教材、進級・卒業要件、目標資格、資格実績、卒業後の進路
(3)教職員	教員の専門性
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育、実習取組、就職支援
(5)様々な教育活動・教育環境	学校行事状況、課外活動
(6)学生の生活支援	学生支援の取組
(7)学生納付金・修学支援	学生納付金、経済支援
(8)学校の財務	法人の財務状況
(9)学校評価	学校自己評価、改善方策
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法
 (1) (3)～(9)ホームページ URL: <http://www.sado-nsg.com/>
 (2)広報誌等の刊行物

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程介護福祉学科) 平成29年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			人間の尊厳と自立	人間理解と尊厳を深めるとともに、介護における尊厳の保持、自立支援の在り方について学習する。	1・前	30	2	○			○	○				
○			人間関係とコミュニケーション	介護実践のために必要な人間関係の理解や他者への伝達に必要な基礎的まコミュニケーション能力を養うための学習をする。また、コミュニケーションを図ることは、人間としてお互いが成長しあう機会であることも学ぶ。	2・前	30	2	○			○			○		
○			社会と制度の理解	今を生きる自分と自分の家族が「社会とどのようにつながっているのか」を考えることを入り口にして、高齢者や障害のある状態の人を含め、すべての人間が人間として生きることを保障されていることを理解する。	1・通	60	4	○			○		○			
○			人間の安全保障(1)	教育が人間にとってなぜ必要かを考え、障がい教育の在り方や学生自らの在り方について学ぶ。	2・前	30	2	○			○				○	
○			人間の安全保障(2)	佐渡の地域社会の現状から、一人ひとりの暮らしの在り方や地域ならではの課題をワークショップを通して学ぶ。	2・後	30	2	○			○				○	
○			人間関係論	演習を通して組織における専門職として必要な人間関係や弱者に対する配慮とコミュニケーションを学ぶ。	1・前	30	2	○			○				○	
○			人間の安全保障(4) 佐渡学・高齢者の生きてきた時代	学生の生活の身近にある佐渡の歴史や地域活動、生活文化を通じた授業を見学や体験を交えて展開する。また、課題学習などを通して、家族や地域の高齢者とのふれあいを深める機会とする。	2・前	30	2	○			○				○	
○			介護の基本Ⅰ 生活の理解と自立	個々の心身状態に応じた介護の知識技術を科学的根拠に基づき学ぶ。	1・通	60	4	○			○				○	
○			介護の基本Ⅱー(1) 介護福祉士の役割	他科目での学習を踏まえて、個々の心身状態に応じた介護の知識技術を科学的根拠に基づき講義・グループワーク・演習を通して学びます。	1・後	30	2	○			○				○	
合計				科目												

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	期
	1学期の授業期間	週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程介護福祉学科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			介護の基本Ⅱ－(1) 介護福祉士の役割	他科目での学習を踏まえて、個々の心身状態に応じた介護の知識技術を科学的根拠に基づき講義・グループワーク・演習を通して学びます。	2・前	30	2	○			○				
○			介護の基本Ⅱ－(2) 介護福祉士の役割	介護福祉士の質が問われる中で、専門職としての基本的な考え方や姿勢の根幹となる「尊厳の保持」「自立支援」について学ぶ。	2・通	60	4	○			○				
○			コミュニケーション技術(1) ホスピタリティ・コミュニケーション	コミュニケーションに関する基本的な考え方を理解すると共に接し方や信頼関係の形成やチームにおけるコミュニケーション能力を身につけます。	1・前	30	2	○			○				
○			コミュニケーション技術(2) 利用者の特性に応じたコミュニケーション	相談を受ける際の原則を理解し、共感や信頼関係を学びます。また、コミュニケーション障害の要因を理解し、対応方法を身につける。	1・後	30	2	○			○				
○			生活支援技術Ⅰ(1)	レクリエーションとは何か、何故必要なかを考察し、様々な対象者に対して社会福祉サービスの視点から、事前評価、計画、実施、事後評価の具体的な方法を学びます。	1・前	30	2	○			○				
○			生活支援技術Ⅰ(2)	利用者の科学的根拠に基づき、個々の心身状態に応じた適切な介護の知識・技術を学ぶ。	1・後	30	2	○			○				
○			生活支援技術Ⅱ－(1)	他科での学習を踏まえて、個々の心身状態に応じた介護の知識技術を科学的根拠に基づき講義・グループワーク・演習を通して学びます。	1・前	30	2				○				
○			生活支援技術Ⅱ－(1)	他科での学習を踏まえて、個々の心身状態に応じた介護の知識技術を科学的根拠に基づき講義・グループワーク・演習を通して学びます。	2・後	30		○			○				
○			生活支援技術Ⅱ－(2)	他科と連動させながら、利用者を科学的根拠に基づき、個々の心身状態に応じた適切な介護の知識・技術を講義と演習を通して学ぶ。	1・後	30	1	○			○				
合計				科目	単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	期
	1学期の授業期間	週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程介護福祉学科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			生活支援技術Ⅱ — (3)	それぞれの介護方法の根拠を講義し、実技を行うことで根拠に基づいた介護実践ができるようにし、実習を通して実践したことを再度授業で確認する。	2・前	30	1	○			○				
○			生活支援技術Ⅲ (1)	食事・衣服に関する技能を講義し、グループワーク、実習を通じた具体的な生活支援方法を学ぶ。	1・後	30	1	○			○			○	
○			生活支援技術Ⅲ (2)	障害別生活支援技術の理論と実技の演習を組み合わせ学ぶ事により、様々な心身状況の利用者に対して的確な対応ができる能力を養う。	2・通	60	2	○			○				
○			生活支援技術Ⅲ (3)	要介護者の心身機能を理解し、グループワークやレポート、演習等を通して介護実践における考え方や介護技術、また、生活意欲の向上に向けたレクリエーションを体験する。	2・後	30	1	○			○				
○			介護過程Ⅰ	介護の支援対象者が誰であり、どのような場面であっても、その人の生活課題を理解し、目標を設定し、求められる支援を導く、思考方法を理解する。	1・後	30	2	○			○				
○			介護過程Ⅱ	個々の介護のニーズのとらえ方と計画書、アセスメントの作成方法を学ぶ。	2・前	60	4	○			○				
○			介護過程Ⅲ	介護を必要とする人の質の向上に向けて、生活上の課題を把握し、それを実現するために必要な介護の在り方を個別に考察し、計画を立て実施、評価していく一連を理解する。	2・後	60	4	○			○				
○			介護総合演習Ⅰ	介護実習の意義と目的を理解し、介護実習Ⅰにおける実習目的・目標を学ぶ。介護実習への導入が円滑に行え、実習で効果的な学びができるために必要な知識・技術・態度について学ぶ。	1・前	30	2	○			○				
○			介護総合演習Ⅱ	介護実習Ⅰ-(2)の実習目標・課題を明確化し利用者、家族のニーズに対する介護福祉士とチームケアにおける役割の理解、人間的な関わりを深めるためのコミュニケーション能力の習得と専門職としての自覚を高める。	1・後	30	2	○			○				
合計				科目	単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	期
	1学期の授業期間	週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程介護福祉学科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			介護総合演習Ⅲ	個別ケアにおける介護計画の立案に関する基本的技術を習得するために、介護過程の授業との連携と通した事例研究・演習を行う。居宅訪問実習で在宅生活における介護の重要性を学ぶ。	2・前	30	2	○			○				
○			介護総合演習Ⅳ	個別ケアにおける介護計画の立案に関する基本的技術を習得するために、介護過程の授業との連携と通した事例研究・演習を行う。	2・後	30	2	○			○				
○			介護実習Ⅰ－(1)	2週間の期間で、高齢者施設などを実習施設として、要介護者コミュニケーションの取り方を中心に実習を行う。	1・前	30	1			○		○		○	
○			介護実習Ⅰ－(2)	高齢者、重度生活障がい等を有する利用者を対象に、様々な暮らしの場を通して、障がいレベルに応じて求められる介護技術の科学的根拠を理解し、基礎的技術を実践的に学ぶ。	1・後		1			○		○		○	
○			介護実習Ⅰ－(3)	個別ケアを実践する為に、ICFの視点から個々の生活リズムや個性を理解し、利用者ごとの介護計画作成－実施－評価といった介護過程を展開し具体的サービスの提供の基本となる実践力を習得する。	1・後		1			○		○		○	
○			介護実習Ⅱ	施設運営のプログラムに参加し、介護サービスについて理解を深める。	2・通		8			○		○		○	
○			発達と老化の理解Ⅰ	人間の成長と発達を各段階に分けた中から、基礎的知識や発達課題を学ぶ。また、学生自らの成長・発達課題やライフサイクルについて思考し、体験的な学習を進める。	1・前		4	○			○		○		
○			認知症の理解Ⅰ	認知症に関する基礎的知識を習得するため、認知症の原因となる病気やその症状の理解と日常生活への影響として見られる中核症状、周辺症状を理解する。	1・前		2	○			○		○		
○			認知症の理解Ⅱ	医学的側面から見た認知症の基礎的理解の基に、認知症のある人のこころの変化や生活面への影響について理解し、そのあり方を思考できる知識を身につける。	2・後		2	○			○		○		
合計				科目	単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	期
	1学期の授業期間	週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程介護福祉学科) 平成29年度																	
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任			
○			障害の理解 I	障害の基礎的理解や医学的側面の基礎的知識を理解し、障害別リハビリテーション介護や連携や協働のあり方、家族支援のあり方を学ぶ。	1・後	30	2	○			○			○			
○			障害の理解 II	障害者介護における連携や協働のあり方、家族支援の実例などについて事例を用いて学習を深める。また、障害を持つ人を通じた授業から、当事者のこころとからだの理解をし、介護する上での留意点を学ぶ。	2・前	30	2	○			○		○				
○			こころとからだのしくみ I	人間の欲求の基本的理解や尊厳、こころのしくみの基礎やからだのしくみの基礎について学び、日常生活場面におけるこころとからだの変化に気づくことを理解する。	1・前	30	2	○			○				○		
○			こころとからだのしくみ II	人間の欲求の基本的理解や尊厳、こころのしくみの基礎やからだのしくみの基礎について学び、日常生活場面におけるこころとからだの変化に気づき連携の取り方を理解する。	1・後	30	2	○			○		○				
○			こころとからだのしくみ III	人間の欲求の基本的理解や尊厳、こころのしくみの基礎やからだのしくみの基礎について学び、日常生活場面におけるこころとからだの変化に気づき連携の取り方を理解する。	2・前	30	2	○			○		○				
○			こころとからだのしくみ IV	人間の欲求の基本的理解や尊厳、こころのしくみの基礎やからだのしくみの基礎について学び、日常生活場面におけるこころとからだの変化に気づき連携の取り方を理解する。	2・後	30	2	○			○		○				
○			医療的ケア I	医療的ケアの基本的な考え方、しくみを理解し、リスクマネジメントを基盤とする安全な喀痰吸引、経管栄養を実施することができる。また、医療的ケアを受ける利用者の気持ちを汲みながらシミュレーションし、実践することができる。	1・後	45	3	○	○		○		○				
○			医療的ケア I	医療的ケアの基本的な考え方、しくみを理解し、リスクマネジメントを基盤とする安全な喀痰吸引、経管栄養を実施することができる。また、医療的ケアを受ける利用者の気持ちを汲みながらシミュレーションし、実践することができる。	2・前	6		○	○		○		○				
○			医療的ケア II	医療的ケアの基本的な考え方、しくみを理解し、リスクマネジメントを基盤とする安全な喀痰吸引、経管栄養を実施することができる。また、医療的ケアを受ける利用者の気持ちを汲みながらシミュレーションし、実践することができる。	2・前	33		1	○	○		○		○			
合計					科目	単位時間(単位)											

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1 学年の学期区分	期
	1 学期の授業期間	週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程介護福祉学科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			リラクゼーション	心と体に癒しを与えることを目的に、アロマセラピー、リフレクソロジー、トリートメントの知識技術を身につける。	1・通	60	2		○		○		○		
○			就職実務	履歴書作成、入退マナー等の就職試験に関わる対策と就職にむけた意識づけを行い就活の準備を整える。	1・後	30	4				○		○		
○			就職実務	履歴書作成、入退マナー、面接対策等の就職試験に関わる対策と就職にむけた意識づけを行い就活の準備を整える。	2・前	30					○		○		
○			情報リテラシー	社会人として要求される。文書処理技能、表計算処理技能、プレゼンテーション技能の習得を図る。また資格の取得を目指す。	1・通	60	3		○		○			○	
○			情報リテラシー	社会人として要求される。文書処理技能、表計算処理技能、プレゼンテーション技能の習得を図る。また資格の取得を目指す。	2・前	30					○		○		○
○			校外学習	様々な、社会福祉施設、地域の学校等関係機関でのボランティア学習	1・前	30			○			○		○	
○			校外学習	様々な、社会福祉施設、地域の学校等関係機関でのボランティア学習	2・前	30						○		○	
○			社会常識	社会人として求められる社会常識の理解、コミュニケーション能力を習得する。また、資格の取得を目指す。	1・通	60	2	○			○		○		
合計				57 科目			2, 2 4 4	単位時間(単位)		

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
学科80%以上出席、成績評価がすべてC以上	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。